



多面的機能支払交付金 活動事例紹介

～ 年間を通した農業体験学習による小学校との連携 ～



1. 組織の概要

杣所資源保全班は、西予市で活動する組織です。この活動組織は昭和61年度から平成12年度にかけて、県営ほ場整備事業宇和地区で整備した田んぼの一部で、平成19年度から交付金活動を開始しており、現在活動を行う対象農用地は、水田23.3haと普通畑1.2haと農地の多くは、水田です。組織の活動としては、農地維持、資源向上（共同・長寿命化）のすべてに取り組んでいます。



2. 田植えから収穫、そして食べるところまで

活動組織では、農業従事者の高齢化が進み、新規就農者も少ない状況の中、たくさんの地域住民の協力を得ながら、農道の草刈りや水路の泥上げ、景観形成のための植栽及び外来種の駆除など、様々な取り組みを継続的に実施しています。そんな中、特に力を入れているのが、地元小学校と連携し実施している農業体験学習で、小学5年生を対象に、田植えや稲刈り、餅つきなど農作業を体験することで、農業の大切さや農村をとりまく自然環境の豊かさなどへの理解を深め、地域や農業への意識の向上に貢献しています。少し暑さが残る秋晴れの日、稲刈りをした児童は「初めて稲刈りをした。暑い中大変だったけど、農家の人たちも頑張っているんだなと思って、頑張った。収穫したもち米を使ったお餅を食べるのがとても楽しみです」と元気に感想を伝えてくれました。



なお、この活動は、以下の項目に位置付けて活動をしています。

㊦啓発・普及活動、㊧やすらぎ・福祉及び教育機能の活用
(一部抜粋)

3. 多面的機能支中国四国シンポジウムへの参加

同活動組織は、交付金を活用して多面的機能支中国四国シンポジウムへ参加し、情報収集を行うことで、活動の参考にしています。「他の組織の事例をすべて取り込むことは出来ないかもしれないけれど、部分的に自分たちの活動の参考にしています」と教えてくれました。

